

卒業論文の要旨

論文題目	近代における屋号の生成史論
氏名	長崎凜子
メジャー	歴史学
<p>(要旨)</p> <p>本研究は、近代における屋号の生成についての比較を行い、屋号の地域的特徴を明らかにすることを目的としています。具体的には、糸魚川市の外波地域、筒石地域と他の地域を比較し、地域差が存在するのかを検証しました。</p> <p>検証方法としては、実際に屋号を使用している人たちに直接聞き取り調査を行いました。そのうえで、屋号の特徴をまとめ、①祖名屋号、②職業屋号、③商売屋号、④地名屋号、⑤本家、分家の系譜屋号、⑥苗字が屋号となった苗字屋号の6つの分類方法で分類し、比較・検討をしました。</p> <p>結果として、同じ屋号であっても、場所によって方言が存在しているため、読み方が異なることが明らかになりました。一方で、屋号は地域内のみで有効可能であり、同じ苗字の家を区別するために使用されていることもあるため、文字として書き示すことがなく、音として覚えるのみで、生成理由がわからない屋号も確認されました。</p> <p>研究の結論としては、屋号の使用は信頼感や親近感を感じさせ、その地域に住む人々にとって大きな役割を担っていたことが判明しました。この結果は、屋号が地域社会における人と人の繋がりを保持する働きを裏付けるものであり、今後の地域社会の在り方を考えるきっかけになるでしょう。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>執筆学生の郷土「糸魚川」地域に存在する「屋号」に着目し、その生成過程を歴史的に考察した優れた研究である。研究にあたっては、「屋号」にかかわる研究史の丁寧な整理によって課題が明瞭なものとなっている。そして、聞き取り調査を踏まえ、民俗学的な手法も取り入れながら、他地域の「屋号」の比較検討を通じて、対象地域の屋号の生成過程をみごとに追究している。上記の点で、2023年度優秀卒業論文に推薦したい。</p>	